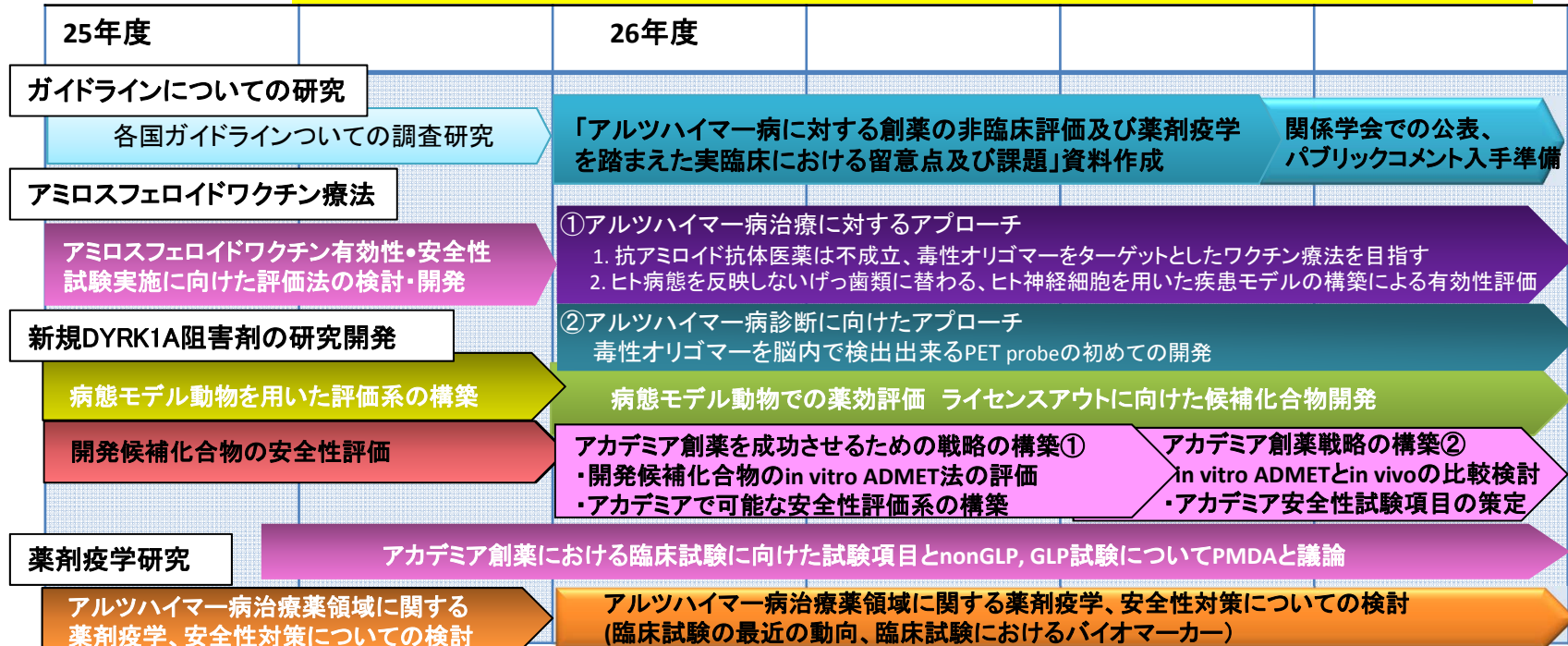


革新的医薬品・医療機器・再生医療製品実用化促進事業(平成26年度成果)

国立大学法人 京都大学大学院医学研究科

アルツハイマー病に対する能動ワクチン・低分子医薬品に関する有効性・安全性の評価方法は国内では確立されていないため、本研究を強力に推進する必要がある。

本研究推進の意義



成果

アミロスフェロイドワクチン療法

アミロスフェロイドをターゲットとした①・②治療有効性、③診断可能性の検討

- ①少数高齢サルの結果に基づく安全性及び有効性試験の実施、投与濃度の決定
- ②ヒト神経細胞を用いたアルツハイマー病モデル系の開発
- ③脳内アミロスフェロイドをターゲットとしたPET probeの有効性評価

新規DYRK1A阻害剤の研究開発

1. バックアップ化合物の探索
 2. in vitro ADMETでの膜透過性・代謝安定性の検討
 3. in vitro ADMETデータを基にin vivoデータの取得・比較検討
- ➡ アカデミア創薬のロードマップの確立を目指す。

薬剤疫学研究

アルツハイマー病治療薬領域に関する薬剤疫学、安全性対策についての検討

- ・アルツハイマー病を対象とした臨床試験の最近の動向に関する調査
- ・アルツハイマー病に関する臨床試験におけるバイオマーカーについての検討

人材交流

1. 京都大学大学院医学研究科からPMDAへの訪問(計40日310時間)
2. アカデミック・民間製薬企業からの専門家5名を外部委員として選定
3. レギュラトリーサイエンス研究委員会の開催(H26. 4, 5, 7, 8, 2月)

社会への発信

萩原正敏教授がAsia Aging Core for Longevity(AACL)で講演(H26.9.24 韓国)

川上浩司教授らがJournal of Alzheimer Disease誌に執筆(H26)

星美奈子准教授が第56回日本老年医学会学術集会Aging Science Forum-Aging Science Update!において講演(H26. 6.12 福岡)